

って制動はかからないが、誘導子のコイルを開路とした場合はレシーバーの磁界密度が急に大きくなるから制動が行われる。

3 連続誘導式

この方式は自動閉塞(へいそく)式区間のみ使用されるもので、地上装置では軌道回路に常に符号電流(コード電流)を流す。この符号電流は一種の断続電流でこの断続する回数を信号現示によって変化させるものである。車上装置としてはこの符号電流を受ける受電器とこれを増幅する増幅器とを設けて、符号電流を車上に受け、或る符号電流の場合に制動管の圧力空気を排出させるものである。(三和達忠)

おなほまりんこうてつどう 小名浜臨港鉄道

1 事業者の概要

名称 小名浜臨港鉄道株式会社, 本社 福島県磐城市字辰巳町, 資本金 9,800 万円, おもな事業 地方鉄道業, 従業員 182 人, 保有車両 蒸気機関車 7, 内燃動車 3, 客車 2, 貨車 22 両。



沿革 明治 40・12 合資会社東商会の軽便馬車軌道として営業開始し、これを大正 4・6 設立の資本金 10 万円の磐城海岸軌道株式会社に譲渡した。昭和 14・6 地方鉄道に変更許可を受け現在の社名に改称, 同 27・12 江名鉄道の営業管理を受託して現在に至る。

2 地方鉄道線

開業線 福島県下において常磐線泉駅に連絡し、泉から栄町に至る延長 6.1km の単線, 動力は蒸気および内燃, 軌間は 1.067 m で旅客・貨物運輸の鉄道である。泉・小名浜間は明治 39・8・16 軌道特許(昭和 14・6・30 軌道を地方鉄道に変更許可)を受け, 同 40・12・1 運輸開始し昭和 28・1・12 栄町に延長開業した。

3 沿線の観光地

小名浜海水浴場(小名浜駅)。

4 運輸概況

項目	昭和 28	29	30
旅客輸送人員(千人)	1,227	1,290	1,417
人キロ(千)	5,395	5,779	6,375
貨物輸送トン数(千t)	440	468	526
トンキロ(千)	1,712	1,796	2,053
旅客収入(千円)	13,930	14,340	15,541
貨物収入(〃)	67,499	69,733	78,508
運輸雑収(〃)	6,515	8,534	9,768
収入合計(〃)	87,943	92,608	103,817
営業費(〃)	86,163	91,183	104,164
営業利益(〃)	1,780	1,424	△ 347
営業係数(%)	97	98	100

(石川 貢)

おのだせん 小野田線 宇部線居能駅から雀田駅を経て、山陽本線小野田駅に至る 11.6km の線。雀田・長門本山間 2.3km の枝線を含み総営業キロ 13.9km。山陽線に属し線路等級は丙線である。

小野田港・小野田間は 大正 4・11 小野田鉄道株式会社によって、居能・小野田港間は 昭和 4・5, 雀田・長門本山間は 昭和 12・1 宇部電気鉄道株式会社によって建設, 昭和 18・4 政府に買収され小野田線と呼ぶこととなった。(森 梯寿)

おのみちてつどう 尾道鉄道

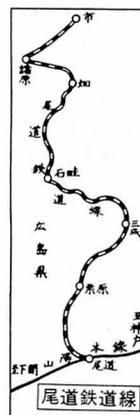
1 事業者の概要

名称 尾道鉄道株式会社, 本社 尾道市栗原町, 資本金 300 万円, おもな事業 地方鉄道・旅客自動車運送(一般乗合 300km, 一般貸切), 鉄道従事員 85 人, 保有車両 電動客車 9, 付随客車 3, 貨車 6 両。

沿革 大正 2 年西尾道・市間 16.7km 免許, 同 7・12 資本金 120 万円で会社創立, 同 14 年西尾道・石畦間営業開始, 同 15 年全通。昭和 8 年国鉄尾道駅へ乗入開始し現在に至る。

2 地方鉄道線

広島県国鉄山陽本線尾道駅に連絡, 尾道・市間 17.1km 単線, 動力電気, 軌間 1.067m, 旅客・貨物運輸を目的とする。大正 2・8・15 免許, 同 14・11・1 および同 15・4・28 運輸開始, 西尾道・尾道間は 昭和 8・3・28 開業。



3 運輸概況

項目	昭和 28	29	30
旅客輸送人員(千人)	1,531	1,524	1,415
人キロ(千)	11,074	10,757	10,402
貨物輸送トン数(千t)	3	3	3
トンキロ(千)	7	5	5
旅客収入(千円)	25,458	24,567	23,043
貨物収入(〃)	610	541	525
運輸雑収(〃)	189	208	179
収入合計(〃)	26,258	25,317	23,747
営業費(〃)	29,607	31,535	29,653
営業利益(〃)	△ 3,349	△ 6,219	△ 5,906
営業係数(%)	113	125	125

(原 功)

おばません 小浜線 北陸本線敦賀駅から舞鶴線東舞鶴駅に至る 84.3km の線, 北陸線に属し線路等級は丙線である。

大正 6・12 敦賀・小浜・舞鶴を結ぶ鉄道として敦賀・十村間開通小浜線と呼称, 大正 7・11 十村・小浜間, 大正 11・12 小浜・東舞鶴間が開通した。

この線は北陸本線と舞鶴線を短絡し, 沿線には海水浴場, 観光地等がある。(森 梯寿)

オーバーラップ・ブロック・システム (英) overlap block system

自動閉そく式施行区間において (1) 閉そく区間が列車の制動距離より短い場合 (2) 自動列車停止装置を設備する場合 (3) 列車過走に対する保安設備をすべき場合などに用いる方法であって, 手前の信号機の停止現示区間をこの短少閉そく区間にまで延長し, つぎの信号機の現示区間と重複させるもので重複閉そく式ともいう。

